子ども青年臨床企画 現地開催（配信あり）

第１会場（センチュリーホール） 11月９日（土）９：00〜12：00

子どもの精神分析的心理療法の現在

司　　会：浅井真奈美（小泉心理相談室）
　　平井　正三（御池心理療法センター／サポチル）
基調講義：木部　則雄（こども・思春期メンタルクリニック／白百合女子大学）
話題提供：・医療現場から　村田　朱美（日本赤十字社医療センター）
　　・福祉現場から　綱島　庸祐（鹿深の家）
　　・教育現場から　井本　早織（ファミリーメンタルクリニックまつたに）
指定討論：生地　　新（まめの木クリニック）
　　鵜飼奈津子（大阪経済大学）

子ども家庭庁が設立され、全国の自治体に子ども家庭センターが設置されるなど、子どもと家族の支援が社会の重要な関心事となっています。こうした社会全体の動きの中で、子どもと家族への心理支援や精神医療的援助に対する社会的ニーズも高まっており、心理臨床や児童精神科、小児科臨床での取り組みがより一層求められています。しかしながら、児童精神科では発達障害の診断が蔓延し、薬物療法がその主役を担うようになっています。また、心理臨床領域では治療教育や療育といった適応のみを重視するアプローチが主流となってきています。臨床現場を熟知する多くの専門家はこれだけでは不十分であることは承知していますが、成す術がないといった状況です。これに対して、精神分析は個々の子ども・家族と深く理解し、関わるアプローチを実践し、その知見と理論が集積されています。精神分析的な治療は煩雑であるために、現在では軽視される傾向にありますが、これは多くの子ども・家庭の臨床の専門家に大きな光明を与えることできると信じています。本企画は、本学会でこの精神分析の知見と理論が未だに臨床現場ではとても重要であり、大きな貢献を成しえることを再確認することを目的としています。まず、こうした精神分析の子ども・家族への貢献を再確認する為に、基調講義において、その歴史を概観したいと思います。また、実際の臨床現場では、こうした古典的な精神分析の枠組みを超えて、いわゆる応用的なアプローチがより求められるようになっています。子どもと個別の精神分析的心理療法を実施することは難しいか、望ましくないケースも多くなっているように思われます。こうした状況で、今日、子どもとの精神分析的心理療法は、子どもと家族の支援の中で果たす役割は何なのでしょうか？

本企画では、基調講義ののち、様々な子どもと家族の心理支援、医療的援助の現場での子どもの精神分析的心理療法の実践を報告してもらい、今日、子どもの精神分析的心理療法が各臨床現場でどのような位置づけを持っているのか考える機会を持ちたいと考えます。